

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人 高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	平成27年6月29日	評価結果市町村受理日	平成27年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=2192800064-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食べる楽しみが生きがいにつながるよう、嚥下内視鏡検査を取り入れています。又、事業所内に歯科診療所があることから、義歯の調整や口腔ケアに力を入れ、一人ひとりに合った食事を提供しています。
 ・生きがい、やりがい、役割が持てるよう、自己決定を大切にできる事を分担しています。特に、「おもてなしセット」(雑巾、箸袋、楊枝入れ)を協力して作り、地域で販売予定です。地域とのつながりはもちろん、その売上げ金を何に使うか、皆さんとても楽しみにされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、自然豊かな環境の中で、穏やかに、ゆったりとした時を過ごしている。事業所は、地域の人たちと共存しながら、質の高い、生きがいづくりに取り組んでいる。利用者の経験と技能を活かし、手づくりの箸袋・雑巾・楊枝入れを「おもてなしセット」として、販売している。併設の歯科診療所による口腔ケア、対象者には、嚥下内視鏡検査を実施して、利用者の食べる楽しみにつなげている。今年度は、惣島区と「防災相互応援協定」を締結し、防災に備えている。職員の育成では、チャレンジシートを活用し、課題と目標に挑戦しながら、利用者の自立と笑顔、満足な暮らしを支え、共に生きる喜びを共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念とベシック(16個の内ひとつずつ)を復唱し、ステーション内にも掲示がしてある。	理念は、目立つ位置に掲示し、支援の基本姿勢を、毎朝、全員で復唱をしている。職員は、地域の安心と輝きを合言葉にし、利用者の生きがいを支え、豊かな人生を歩めるように、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の清掃活動や例祭等に参加。PTAの資源回収にも参加し交流している。	自治会の行事参加や、中学生との世代間交流を継続している。また、住民ボランティアが、窓拭きや除雪作業に訪れている。雪害による停電時に、住民から石油ストーブの提供や応援があるなど、地域の一員として日常的なつきあいができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の講演会に招かれ講演をしたり、相談を受けた場合はお答えできるよう認知症の理解を深めるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族はもちろん、地域の方にも参加していただいている。率直な意見が多く、それを無駄にしないようサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、3ヶ月毎に開催をしている。行政担当者も出席し、事業報告やイベント計画、介護保険改正、職員不足対策、地域との防災協定、冬期の安全対策等、様々な議題を話し合い、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問調査時には担当職員と情報交換を行い、書類関係はなるべく市役所まで出向き情報交換をしている。	市の担当者が、利用者の保険の手続きや、介護申請後の訪問調査に訪れている。その際、事業所の実情を正確に伝え、情報交換をしている。また、困難事例は、行政へ出向いて相談し、連携を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、拘束のない暮らし、環境作りをしている。自然治癒力を大切にし窓を開放し、自由に行き来ができるようにしている。	玄関は施錠せず、利用者の自由な行動を見守っている。日常生活では、窓を解放し、閉塞感や抑圧感のない環境づくりに努め、一人ひとりの自然治癒力を活かして、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行っている。特に言葉の暴力について理解を深め、スタッフ同士で声を掛けあい意識向上をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居時必要性がありそうな方には説明を行い支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務担当者が自宅に出向き、時間をかけ丁寧に説明を行っており理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会票に意見記入欄を設けている。又、面会時に話しやすい雰囲気や心を心がけている。意見や要望があった場合、ユニット会議などスタッフ間で話し合いを行い運営に反映させている。	家族へは、元気館便りや暮らしの様子を写真入りで送付している。訪問時には、話しやすい場や雰囲気づくりに配慮し、家族から意見や要望を聞いている。出された意見を職員間で話し合い、改善をしている。	きめの細かいサービス、ケアを提供しているが、家族には、十分に伝わっていない例がある。コミュニケーションや伝達内容の再検討に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の施設全体でのリーダー会議があり、意見を出し合う場がある。	全員参加の職員会議で、意見や提案を話し合っている。必要に応じて議題を設定し、研修会の報告やケアの気づき、専門性を高めるプログラム、働きやすい職場づくりなどを検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジカードを用いて自己研磨し、人事考課表や意見聴取、面談にて評価がなされる。各自が意識し、向上心を持って働ける環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に外部研修受講希望を募り、できるだけ参加を促している。費用は法人負担で勤務日についても考慮し、より受講しやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の病院で行われる市内施設職員対象の勉強会に参加し、知識や技術の習得に加え、他施設職員と情報交換や交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に、できるだけ要望などが汲み取れるよう話を傾聴し受け止め、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時に話しやすい雰囲気を作り、ご家族が希望すること、困っている事等を傾聴し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を受け止め、必要な支援を見極め、サービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を家族の一員として捉え、家事や畑等の場面では、教えて頂く姿勢で一緒に作業をしたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で近況を知らせたり、衣替えや日用品の購入など来訪機会を作り、又、家族にしかできない事を依頼し、共に支えていただけるような関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ時にゆかりの場所へ行ったり、近所の方や友人の方が面会しやすい雰囲気作りに努めている。	併設の小規模特養、歯科医院などで馴染みの人に出会っている。道の駅、足湯、神社などへのドライブや、行きつけの商店へ出かけ、地域の人との関係継続を支援している。面会者には、雰囲気づくりに努め、もてなしの心で対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員でのレクリエーションや行事、誕生会を催し参加を声掛けしている。 馴染めなかったり、トラブル時はスタッフが間に入り、皆で協力し合い、楽しみ、笑う事ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方がいたが、後日面会に伺ったり家人にはその後の様子を電話で聞いたりしており、関係が継続できるようにしている。又、当施設での生活を写真アルバムとしてご家族に贈り、将来の相談にも対応する様説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを大切にしている。本人や家族と話をしたり職員間で意見交換をし把握に努めている。特に入浴時間や食事時間、起床や就寝時間など本人のペースに合わせている。	個々の生活スタイルを把握し、こだわりや大事なものの、趣味や嗜好を確認して対応している。意思表示が困難な人は、表情やつぶやきの中から、思いを感じ取るよう努め、職員間で共有しながら、意向に添った暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、居宅ケアマネージャーや家族から話を聞き情報収集に努めている。又、家族からは面会時にも聞き関係性を築きながらケアに活かしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートの確認、スタッフ間で情報交換を行うことで状態変化の気づきを共有しケアに活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが毎月モニタリングを行っている。家族には面会時や電話、本人にも意向確認をし、ケアプランに反映させている。月1度のユニット会議や申し送りノート等で情報交換をし、アイデアを出し合っている。	計画の作成に当たり、サービス担当者会議を開いている。また、担当者を中心にモニタリングを行い、本人・家族の意向も確認をしている。本人の自己決定を尊重し、生きがいを持てるように介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動させた介護記録用紙を使用している。本人の言葉を記載することで気づきや工夫につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節、天気に合わせてドライブや、食べたい郷土料理を一緒に作ったりしている。時には家族にも協力を仰ぐときもある。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアグループや床屋、移動販売の方々が来館される。行事を催す時はいくつかのボランティアグループ、高校にも声を掛けている。年に数回温泉入浴の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設特養の嘱託医を主治医にしてみえる方、入居前のかかりつけ医を継続してみえる方がいる。かかりつけ医に情報提供をし連携を図っている。	併設の嘱託医を、かかりつけ医としている利用者と、入居前のかかりつけ医を継続の人がいる。特別な疾患がなければ、いつでも連絡が取れ、協力医の往診も受けている。緊急時は、指定の総合病院と、適切な医療が受けられるように、連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師に相談をしアドバイスや指示看護の支援がある。受診につながる事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリー、退院時は看護サマリーで情報交換をしている。特に救急搬送時は、医療機関への情報提供と家族対応の為職員が同行し、病院との連携がスムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは入居時に希望を伺っている。その様な状況になった場合、本人、家族、医師、事業所で今後の方針を話し合う場を設けている。	入居時に、本人・家族に重度化・終末期の方針を説明し、同意書を交わしている。看取りの事例はないが、支援体制は整えている。併設の小規模特養から実践経験を学び、何時でも対応できるように、職員教育を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が参加する救命救急勉強会を開き、講習、練習を行っている。年に2回、定期的に行う事で再確認もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を半年に1度行っている。地域とは災害時防災応援協定を締結し、災害発生時の協力体制を築いている。	災害訓練は、消防署の協力の下、年に2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。さらに、地域の防災訓練にも参加をしている。備蓄も十分備え、自治会とは「相互防災応援協定」を締結している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生きてこられた人生史をできるだけ把握し、尊厳を守った丁寧な言葉掛けや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉がけで対応をしている。常に、笑顔と穏やかな態度で接し、簡潔で分かりやすい言葉を用いて、自尊心を傷つけないように、努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から想いを表しやすい雰囲気や関係作りに努めている。又、どんなことも選択していただけるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を伺いながら、一人ひとりのペースや希望に合わせて安楽に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人に聞きながら選んで頂いている。化粧の習慣がある方には声かけやお手伝いさせていただき、習慣が継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、行事食を大切にしている。準備や後片付けを、皆でわいわい協力して行っている。尚、インテーク時に好き嫌いやアレルギーについて本人や家族から情報収集をしている。	事業所の畑で育てた野菜や、旬の食材を献立に取り入れている。職員と一緒に、調理や準備、片付けなどにも関わっている。食べやすい姿勢、足元に台を置き、飲み込みやすい体勢の工夫により、食べる楽しさ、美味しさを、笑顔で職員と共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や運動量の他、嚥下内視鏡検査により適正な食形態の把握に努め食事を提供している。水分確保については一人ひとりの目標量目安を作り、好きな飲み物を提供。又、水分が摂りづらい方にはゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には嚥下体操を一緒に行い、毎食後に口腔ケアを声掛け、見守り、介助している。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりのパターンをつかみ、見計らって声かけをし失敗を防いでいる。	個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、こまめにトイレへ誘導をしている。その結果、排泄の失敗が減り、自立につながっている。夜間も昼間と同様、トイレへ促し、ポータブルトイレ使用の人は、ゼロである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、ヨーグルトを欠かさず提供。水分をしっかり摂っていただき、繊維の多い食材を取り入れている。又、日課として散歩をして体を動かし、自然なお通じを目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた時間に入浴して頂いている。夜間入浴もおこなっている。	入浴日や時間を固定せず、利用者の希望に応じて、夜間にも対応をしている。浴槽は、信楽焼で、運営者の思い入れがあり、照明も工夫をしている。入浴拒否の人は、タイミングをずらして、声かけに工夫し、楽しい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を知り、休みたい時に休めるよう声を掛けたり、空調など環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬情報を一人ひとりでまとめている。薬の内容、副作用についても目を通し、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物の得意な方には雑巾縫い、折り紙の得意な方には楊枝や箸入れを作り、「おもてなしセット」として地域の道の駅、当事務所にて販売予定。その売上金をどのように使うか、皆さんとても楽しみにしてみえる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日に一度は外に出るよう心がけ、自然治癒力向上を目指している。家族には馴染みの場所へのドライブにも協力していただいている。	日常的に、周辺を散策している。車椅子での外気浴も日常である。事業所前のグラウンドに来る少年野球の応援をしたり、ドライブを兼ねて、買い物や花見・道の駅へ出かけている。時には、家族の協力を得て、朝市にも出かけている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じて買い物ができる方は小銭を持ってみえ、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる方は自由に電話をしている。スタッフと一緒に電話をかけることもある。手紙のやり取りでは、職員がハガキを購入し、差出までを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、殺風景になり過ぎないようにしている。季節の花を持ち寄り、季節感と彩りを添えている。明るすぎないように間接照明や快適に過ごせるよう空調にも配慮している。	中庭の一角に、燕の子育てが見える。廊下の曲がり角の畳コーナーに、踊り用の扇子を飾り、水槽で飼育しているメダカは、利用者の癒しとなっている。窓からは、自然豊かな風景が広がり、居心地のよい生活空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外でも休めるよう、廊下にちょっとした畳コーナーや、ソファを設けている。いくつかの空間を作り、外や金魚を眺めたり、気心の知れた同士で穏やかな時間が過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた布団、服、タンス等使い慣れたものを持ち込んでいただき使いやすいよう本人と相談しながら配置している。	居室には、洗面台と電動ベッドが設置してある。馴染みの布団や枕、整理タンスを持参して、使い易く配置をしている。和室は2部屋あり、選択ができる。仏壇や位牌、絵手紙、写真などを飾り、個性的な部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりづらい方には、表札を大きくしたり目印を付け分かりやすいよう工夫をしている。		